

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
学科	版画概論	天野純治	1単位 15時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>作品を制作する時、感覚ともう一つ重要な要素として 作品への思考（コンセプト）があります。この授業ではここに焦点をあて作品鑑賞や現代の美術史を研究することからコンセプトの重要性を考えていきます。そして個々の制作の可能性を上げることがを目標とします。最後に 個々の作品と、その作品に対してのプレゼンテーションを行います。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>作品の鑑賞。ポップアート以降の現代美術史及び作品の研究を行い、今に至る美術史を学ぶ。そこから個々の制作に客観性と作品へのコンセプトを考えていく。また、自身の作品についての発表と全員での意見交換を行う。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	版画概論授業説明 現代版画①		
2	現代版画②ポップアート以前		
3	現代版画③ポップアート		
4	現代版画④ポップアート、オプティカルアート		
5	現代版画⑤プライマリーストラクチャー、ミニマルアート		
6	現代版画⑥コンセプチュアルアート、現代美術		
7	現代版画⑦現代美術と版表現		
8	現代版画⑧版表現のいま		
9	プレゼンテーション		
10	プレゼンテーション、講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、成績評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義・演習形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1949年鳥取県生まれ。多摩美術大学大学院修了。第45回版画展版画協会賞、毎日現代日本美術展、日本国際美術展、World Print Competition最高賞。多摩美術大学客員教授。（社）日本版画協会会員。</p>			

## 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	フランス語II	内田雅之	2単位 37.5時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
フランス語1の修了者を対象として、一年次に習得した基礎力を基盤としながら会話表現・文法の両面での知識を広げていきます。また、少しずつ書かれたものを読む練習も行います。			
<b>【講義概要】</b>			
前期は、まず問題練習などを通じて、書くという別観点を少し意識しながら昨年の復習を行います。その後複合過去、単純未来へと文法面で次のステップへと移っていきます。後期は、フランス旅行の機会を想定して、オリジナルのフランス旅行のしおりを作成していく課題が課され、校内展示の機会を設けます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	17	講義
2	講義	18	講義
3	講義	19	講義
4	講義	20	講義
5	講義	21	講義
6	講義	22	講義
7	講義	23	講義
8	講義	24	講義
9	講義	25	講義
10	講義	26	講義
11	講義	27	講義
12	講義	28	講義
13	講義	29	講義
14	講義	30	講義
15	講義	31	講義
16	中間試験	32	後期試験
<b>【成績評価方法】</b>			
期末ごとに試験を行い100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1969年福岡県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科仏文専攻修士課程修了。多摩美術大学非常勤講師。 また俳優養成所を経て映画・舞台に出演、受賞作多数。またTHEATRE茶房の冠でプロデュースも行ない、ギャラリー・プリントでの『クロワゼ』公演、朗読、ミュージシャンやビデオアートとのコラボレーションなど活動の幅を広げている。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部 (3年制)	2020年度	2年・前期/後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	特別講座/就職セミナー	ゲスト講師	1単位 18時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>特別講座：現代社会においてクリエイターの役割は益々重要性を増し、その領域は日々拡大しつつあります。講座では創作における考え方、発想法をリアルタイムな講義を通して学んでいきます。</p> <p>就職セミナー：就職活動から入社後の心構えやクリエイターとしての取り組みなどについてセミナー講座を開催。 *1年生は夏課題と合わせて単位修得</p>			
<b>【講義概要】</b>			
7/11(土)就職セミナー1 (卒業生)、9/5(土)海外留学準備コース講座1、9/26(土)同窓会特別講座、10/2(金)海外留学準備コース講座2、12/12(土)創形展特別講座、2/13(土)就職セミナー (就活ポートフォリオ)			
回	授業計画及び学習の内容		
1	就職セミナー1		
2	海外留学準備コース講座1		
3	同窓会特別講座		
4	海外留学準備コース講座2		
5	創形展特別講座		
6	就職セミナー (就活ポートフォリオ)		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。</p> <p>なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。</p> <p>合格：(100~95：A+ 94~80：A 79~70：B 69~60：C) 不合格(59~0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・ディスカッション形式を基本とする。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年留学生・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	日本語能力試験N1対策	蔣燕萍	2単位 63時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>①日本語能力試験N1に合格できる力を付けること。            ②試験対策にとどまらない全般的な語彙の力をつけること。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
試験に出題される「文字語彙」「文法」「聴解」の練習問題の解答を通じて日本語力を向上させること。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	17	講義
2	講義	18	講義
3	講義	19	講義
4	講義	20	講義
5	講義	21	試験
6	講義		
7	講義		
8	講義		
9	講義		
10	講義		
11	講義		
12	講義		
13	講義		
14	講義		
15	講義		
16	講義		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>試験を行い100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。            なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。            合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。            中国福建省出身。2008年来日。2011年日本語能力試験N1合格。2014年3月札幌大学経営学部経営学科卒業。            2014年4月株式会社アイデム入社。新卒担当のエージェントとして留学生の就職をトータルサポート。2016年7月より創形美術学校にて主に広報活動と留学生教育に携わる。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
ファインアート科昼間部（3年制）	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年留学生・前期/後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	美術日本語	メロス言語学院講師	2単位 36時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
美術・デザインに関する専門用語の勉強によって、日本語（特に口語能力）の向上を目標として挙げます。			
<b>【講義概要】</b>			
1.1分間スピーチ（30分） 2.美術関係記事についてのディスカッション（50分） 3.映像教材を用いた美術用語導入（90分） 4.前回導入した美術用語のチェック小テスト（10分） 5.課外宿題			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	講義		
3	講義		
4	講義		
5	講義		
6	講義		
7	講義		
8	講義		
9	講義		
10	講義		
11	講義		
12	試験		
<b>【成績評価方法】</b>			
試験を行い100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択実技	映像ワークショップ	三田村光土里	1単位 30時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>現代社会のクリエイティブ環境の中には、ますますアートの感性や発想を求められる機会が増えてきています。それらは目指す共通の理念がアートとデザイン共に人に「感動」を与える事を目標にしているからに他なりません。そういった時代の流れを受けて様々なアートの分野より活躍している講師からリアルタイムな現場の情報と方法論を学び、クリエイティブな発想の「入口」、「きっかけ」になる講座をめざします。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>フォト・ストーリーをつくる</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	制作チェック		
3	制作		
4	制作チェック		
5	制作チェック		
6	制作		
7	制作チェック		
8	制作チェック		
9	制作		
10	発表・講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。          現代美術家。1964年生まれ。写真を使った空間作品を国内外で発表。2006年ウィーン分離派館にて個展。2003年東京都写真美術館『日本の新進作家展vol.2』。2016年あいちトリエンナーレ他。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	銅版画2	山本剛史	3単位 54時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>銅版画技法に触れ、この面白さを体感し、今後の制作プロセスの幅を広げて頂ければと思います。銅版画には色々な技法がありますが、その中のいくつかを組み合わせて、自身の作品を制作してもらいます。版画表現は『写し取る』ことによって初めて成立する独特な手法です。どの工程においても丁寧に取り組むことが、作品に驚くほど影響します。この体験によって制作態度における誠意の大切さと『写し取った』自らの作品に対面する新鮮な驚きを学習して頂きたいです。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>エッチング、アクアチント、ドライポイント、リフトグラウンド、ソフトグラウンドエッチング、など銅版画的な技法を紹介します。製版と刷り作業を実演した後、2つ以上の技法を選択し作品制作へと進んでもらいます。『提出用作品』は2枚を予定しています。支持体となる版画用紙はハネミュレを使用。画面サイズ200×280mm。紙サイズ300×380mm。刷り上げた作品にはサインとエディションを入れて提出していただきます。最後は講評会にて、実際にやってみた感想とそれぞれの作品について皆で話し合い授業を終了とします。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	17	制作
2	制作	18	講評会
3	制作		
4	実演／講義		
5	制作		
6	制作		
7	制作		
8	実演／講義		
9	制作		
10	試作チェック		
11	制作		
12	実演／講義		
13	制作		
14	試作チェック		
15	制作		
16	試作チェック		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。          1967年静岡県生まれ。創形美術学校版画科卒業。主に「建築」「椅子」をモチーフにし、空間と「もの」のたたずむ相を切り取る作品を展開、近年では転写法を用いた平面作品や、平面にとどまらないオブジェ作品を制作、表現方法を広げている。東京、埼玉、神奈川、長野、名古屋、ドイツ、イギリス、上海などで個展発表。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	現代美術演習A	山本 晶	1単位 24時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
より一層多様化する美術表現に対する理解力を身につける。			
<b>【講義概要】</b>			
発想から表現へ、どのようなアプローチをすればいいのかを実践を通じて探ります。美術の様々な表現方法を分析しテーマに対してどのように実践をするか演習します。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	自己と表現と人の考え		
3	自己と表現と人の考え		
4	描かれるもの		
5	色について		
6	破壊と再構成の自画像		
7	拡張する絵画		
8	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 武蔵野美術大学大学院修了、文化庁国内・在外研修、ホルベインスカラシップ、主なグループ展『ART TODAY 2004』『VOCA』。主な個展 ギャラリーエアンドウ、アートフロントギャラリー、ギャラリーαMなど。			



# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	絵画技法実習(混合技法)	安藤孝浩	1単位 24時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法を習得することを目的とする。			
<b>【講義概要】</b>			
北方ルネサンスから20世紀のウィーン幻想派に至るまで、様々な絵画表現に用いられたテンペラと油彩による混合技法(安藤)、及びルーベンスを中心としたバロック期の油彩によるグリザイユ(工藤)を中心に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション 下地塗り3層乾燥後に図版の写し		
2	地透層（インプリマトゥーラ） 白色浮出		
3	油絵の具1層目及び白色浮出		
4	油絵の具2層目及び白色浮出		
5	制作		
6	制作		
7	制作		
8	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1965年東京都生まれ。1991年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。2016年～2018年東京藝術大学非常勤講師。現在、科学とアートを横断する作品を制作。主な活動として、2009年～2012年宇宙航空研究開発機構（JAXA）とコラボレーションした文化・人文社会科学利用パイロットミッション『お地球見』（ISS国際宇宙ステーションにて実施）など。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	絵画技法実習(グリザイユ)	工藤礼二郎	1単位 24時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法を習得することを目的とする。			
<b>【講義概要】</b>			
北方ルネサンスから20世紀のウィーン幻想派に至るまで、様々な絵画表現に用いられたテンペラと油彩による混合技法(安藤)、及びルーベンスを中心としたバロック期の油彩によるグリザイユ(工藤)を中心に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーリング技法説明、制作		
2	制作		
3	制作		
4	制作		
5	制作、講評		
6	水張り、技法説明、制作		
7	制作		
8	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1964年大阪府生まれ。1990年創形美術学校造形科卒業。1991年同校研究科絵画造形課程修了。1996年渡仏、パリ国際芸術都市滞在。東京・大阪・パリで個展（ギャラリー現、ギャラリエ アンドウ等、多数）その他グループ展多数。無所属。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	シルクスクリーン2	東樋口徹	2単位 81時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し環境にやさしい水性インクを使用し刷紙に刷ります。PCを使用した4色分解による4版4色の作品（18×25cm位）を1点、5版以上を使った作品（25×38cm位）を1点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>基本的な水性インクで紙に刷る4版4色を使った作品（A4/21cm×29.7cm）を一点（紙4枚程度）、5版以上を使った作品（A3/29.7cm×42cm）を一点（紙8枚程度）制作。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション・技法説明	17	制作
2	技法説明 (PCを使用した4色分解)	18	制作
3	技法説明 ・制作	19	制作
4	制作	20	制作
5	制作	21	制作
6	色々な刷り方説明	22	制作チェック
7	制作	23	制作
8	制作	24	制作
9	制作	25	制作
10	制作チェック	26	制作
11	制作	27	講評会
12	制作		
13	制作		
14	制作		
15	制作チェック		
16	制作		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。          1975年奈良県生まれ。2006年東京藝術大学美術研究科修了。2005年第3回山本鼎版画大賞展準大賞、2007年Prints Tokyo 2007買上賞（三極）、2009年The 2nd NBC MESHTEC TOKYO INTERNATIONAL SCREEN PRINT BIENNIAL優秀賞。2015アワガミ国際ミニプリント展大賞。（社）日本版画協会会員。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	現代美術演習B	黒瀬陽平	1単位 24時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
現代の視覚文化は映像を媒体としたコンテンツを抜きにして成立しません。サブカルチャーからハイカルチャーまで、映像というメディアがどのような役割を果たし、どのように展開したのか。本講義では主に戦後日本を中心としてアニメや映画、ゲームなどの映像コンテンツが表現してきたものを読み解いていきます。			
<b>【講義概要】</b>			
現代美術への理解を深め、作品制作のヒントを得るために、レクチャーと課題&講評会、課外授業を組み合わせたカリキュラムを行います。レクチャーでは、現代美術についての原理的な解説、日本現代美術史と戦後日本文化全般の解説を中心に行います。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	レクチャー②（課題①出題）		
3	【課外授業】美術館解説ツアー①		
4	課題①講評会+レクチャー②		
5	レクチャー③（課題②出題）		
6	課題②講評会+レクチャー④		
7	【課外授業】美術館解説ツアー②		
8	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1983年生まれ。美術家。美術批評家。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程修了。博士（美術）。アーティストグループ『カオス*ラウンジ』を結成し、展覧会やイベント等をキュレーション。キュレーション作品に『キャラクラッシュ！』（2014年）など。著書に『情報社会の情念』（NHK出版、2013年）。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	リトグラフA	中村真理	2単位 66時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。			
<b>【講義概要】</b>			
リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、道具の説明	17	製版、刷り
2	版の準備、描画、製版デモ	18	描画
3	描画	19	描画
4	描画	20	製版、刷り
5	描画	21	刷り
6	製版、刷りのデモ	22	講評会
7	描画		
8	試しの版の刷り		
9	描画		
10	描画		
11	描画		
12	描画		
13	描画、製版		
14	製版、刷り		
15	刷り		
16	刷り		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1988年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院版画コース修了。2013年日本版画協会第81回版画展山口源新人賞、第39回全国大学版画展収蔵賞、2015年武蔵野美術大学卒業・修了制作展優秀賞、第87回版画展準会員優秀賞（社）日本版画協会会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	ドローイングA	鈴木吐志哉	3単位 54時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>版画制作から離れ、ドローイング制作に集中する時間とする。版画の技法に制約されることなく、様々な支持体や素材を試す事で多角的に各自の表現を研究する。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。版表現から一旦離れ、自由な表現を繰り返す中から自分の作品について考える時間とする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス・作家紹介	17	制作
2	制作	18	講評会
3	制作		
4	制作		
5	制作チェック		
6	制作		
7	制作		
8	制作		
9	制作チェック		
10	制作		
11	ディスカッション1		
12	制作		
13	制作		
14	制作チェック		
15	制作		
16	ディスカッション2		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。          1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展（神奈川県立近代美術館賞）。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ（大賞）他、（社）日本版画協会会員。版画学会会員。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	木版画	鈴木吐志哉	2単位 84時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>1年次の「専攻別ワークショップ（版画専攻）」で体験した水性木版画1版単色をこの授業ではさらに多色木版画に展開していくことで、木版画技法の充実と色彩について研究します。水性多色木版画の技法は浮世絵に見られるように日本独自の進化を遂げた技法でもあります。古来からの技法と現代の技法を駆使して自由な発想で制作してもらいます。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>300×225mm（4～5版多色）、水性木版画の作品の制作および基本技術と技法の展開。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	多色木版画トレーニング・見当板制作	17	作品の展開 2
2	木版画について・下図制作	18	摺り・彫版
3	下図制作	19	摺り・彫版
4	トレースについて	20	摺り・彫版
5	トレース～彫版	21	摺り・彫版
6	彫版～トレース	22	摺り・彫版
7	摺りについて	23	摺り・彫版
8	彫版・摺り	24	摺り・彫版
9	彫版・摺り	25	作品の仕上げについて
10	彫版・摺り	26	摺り・彫版
11	作品の展開 1	27	摺り・彫版
12	彫版・摺り	28	講評会
13	彫版・摺り		
14	彫版・摺り		
15	彫版・摺り		
16	彫版・摺り		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。          1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展（神奈川県立近代美術館賞）。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ（大賞）他、（社）日本版画協会会員。版画学会会員。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	製本実習	山口茉莉	1単位 21時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
簡易なノート制作と、自分だけの上製本を制作します。			
<b>【講義概要】</b>			
本の造り、紙の持つ性質を学び、実際に製本する過程を通して「本」そのものの価値を考えます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	制作		
3	制作		
4	中間チェック		
5	制作		
6	制作		
7	講評会		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 2006年女子美術大学芸術学部絵画学科卒業。2008年同大学院研究領域版画修了。2015年英国JADE BOOKBINDING STUDIOにて研修。近年は「空想建築」を主題として平版画、陶、製本の技術を生かしたミクスト メディア作品等を制作発表している。（社）日本版画協会準会員。			



# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部 (3年制)	2020年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	リトグラフB	中村真理	2単位 72時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び、リトグラフの特性を活かした制作を行う。			
<b>【講義概要】</b>			
リトグラフの特性を利用して個々の表現したいテーマに基づき制作する。4版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングのように手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。多色刷りの授業なので、1人3版以上使用し作品をつくる。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、ベタ版の説明と刷りのデモ、見当の説明、下図チェック	17	描画、製版、刷り
2	1版目の描画	18	描画、製版、刷り、中間講評
3	描画	19	描画、製版、刷り
4	描画	20	描画、製版、刷り
5	見当を使った多色刷りのデモ、描画、製版	21	描画、製版、刷り
6	彫版～トレース	22	描画、製版、刷り
7	描画、製版	23	刷り
8	描画、製版、刷り	24	講評会
9	描画、製版、刷り		
10	2版目以降の描画開始、製版、刷り		
11	描画、製版、刷り		
12	描画、製版、刷り		
13	描画、製版、刷り		
14	描画、製版、刷り		
15	描画、製版、1版目の刷り全員終了する		
16	描画、製版、刷り		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1988年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院版画コース修了。2013年日本版画協会第81回版画展山口源新人賞、第39回全国大学版画展収蔵賞、2015年武蔵野美術大学卒業・修了制作展優秀賞、第87回版画展準会員優秀賞(社)日本版画協会会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	写真と美術	松蔭浩之	1単位 21時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
写真の成り立ちから、構図や光の捉え方などを享受しつつ、「写真とはなにか？」を考察し、絵画制作に活用することを目標にする。			
<b>【講義概要】</b>			
歴代写真家の作品を紹介し、読み解きながらの座学と、デジタルカメラの扱い方を指導しつつ、ワークショップ形式で制作を重ねる。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	写真の誕生／カメラの仕組み		
2	私の写真論1／カルティエ・ブレッソンを「読む」		
3	デジタルカメラ入門1		
4	私の写真論2／WS「モノクロ・ユニバース」		
5	デジタルカメラ入門2		
6	セルフポートレート実践／森村泰昌		
7	セルフポートレート実践／WS 講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1965年福岡県生まれ。1988年大阪芸術大学写真学科卒業。現代美術家。写真、グラフィック、空間デザインなど多岐にわたって活動。ヴェネツィアビエンナーレ、シンガポールビエンナーレ出展。『昭和40年会』会長。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	石版画	板津 悟	2単位 72時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
講義、実習を通して石版画の歴史や技術を学び、平版の仕組みを体感しながら石版石の特徴を活かした制作を行う。			
<b>【講義概要】</b>			
石版石を版材として使える様な状態にするまでの作業工程も含めて、素材との対話を大切にしながら個々の表現を考える。作品はモノトーンとし、一つ一つの行程を把握する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、研磨	17	描画
2	描画	18	製版、刷り
3	描画	19	描画
4	描画	20	描画
5	描画指導	21	製版、刷り
6	描画	22	描画
7	描画	23	描画
8	描画	24	講評会
9	描画		
10	描画指導		
11	描画		
12	描画		
13	描画		
14	描画		
15	製版、刷り		
16	描画		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1958年岐阜県生まれ。21歳で渡米、シアトルの大学で絵を学び、後にプリンターへ転向。リトグラフのプリンター養成工房としてはアメリカ随一と言われていた。 タマリンド石版画研究所に入る。その後日本に帰国、1987年にイタツ・リトグラフィック（Itazu Litho-Grafik）を設立。国内外の作家と共同により多くの作品を制作。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	木口木版画	栗田政裕	1単位 45時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
木口木版画は、18世紀頃ヨーロッパで完成された木版画の技法である。柘植、椿等の堅牢な木材の木口の面を、ビュランという彫刻刀で彫り進んでいく木口木版画の技法は、白と黒との精緻な表現に適している。本実習では、版画の技法の中でもとりわけ単純で明快な、彫って摺るという行為に重点を置く。原初的な彫版の作業の中で制作者は自分自身の素直な表象と出会う実習である。			
<b>【講義概要】</b>			
テーマ=自由制作			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	制作		
3	制作		
4	制作		
5	制作指導		
6	制作		
7	制作		
8	制作		
9	制作指導		
10	制作		
11	制作		
12	制作指導		
13	制作		
14	制作		
15	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1952年茨城県生まれ。1975年東海大学卒業。1976年創形美術学校研究科版画課程修了。1995年文化庁派遣芸術家在外研修員として渡欧。 2005年第10回高知国際版画トリエンナーレ高知県立美術館賞受賞。（社）日本版画協会会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	銅版直刻	長島 充	1単位 54時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
講義、実習を通して石版画の歴史や技術を学び、平版の仕組みを体感しながら石版石の特徴を活かした制作を行う。			
<b>【講義概要】</b>			
石版石を版材として使える様な状態にするまでの作業工程も含めて、素材との対話を大切にしながら個々の表現を考える。作品はモノトーンとし、一つ一つの行程を把握する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス・下絵トレース～彫版	17	刷り
2	描画	18	講評会
3	描画		
4	描画		
5	彫版指導～印刷説明		
6	彫版		
7	彫版		
8	彫版		
9	試し刷り～彫版指導		
10	彫版		
11	彫版		
12	彫版		
13	彫版		
14	彫版		
15	本刷り指導		
16	刷り		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1959年千葉県生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。1984年～日本版画協会展出品（以後毎年）、R.O.C.国際版画・素描ビエンナーレ版画部門銀賞、カプラム国際版画ビエンナーレ名誉メダル賞、日本版画協会展準会員賞、イビザ国際版画ビエンナーレ最高賞、環太平洋国際版画展2011特別賞受賞。その他国際版画展、美術館企画展多数出品。（社）日本版画協会会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	先端メディア	八幡純和	1単位 21時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
VRという技術とそこに連動して様々な新しい魅力を展開しているサービスへの理解。また先端技術を応用した作品制作への展開。			
<b>【講義概要】</b>			
ゲームやファッションの世界だけでなく現代の様々なカルチャーやサービス、イベントなどと連動して発展している「VR（バーチャルリアリティ）」の世界。そのVRの仕組みと特性を理解しながらバーチャル空間ならではの作品制作を個々に試みます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	企画・演出		
3	企画・演出		
4	制作		
5	制作		
6	制作		
7	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 携帯キャリア公式コンテンツ配信プラットフォームやアプリストアなど、主に大規模システムの開発・運用に携わる。 2015年 Psychic VR Lab 設立に参画。三越伊勢丹やパルコ、ファッションブランドとVRを活用した様々な企画・製作を手掛ける。2018年パルコらと共に様々なクリエイター／アーティストとVR/MRを使って超体験をデザインするプロジェクト NEWVIEW をスタート。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	ドローイングB	鈴木吐志哉	1単位 42時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>「ドローイングA」同様に自由なドローイング制作に集中する時間とする。ただし、今回は各自の版表現へどのように展開できるかも同時に検証する。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。1000×700mm程度の大作が望ましい。作品の展示額装及びパネル制作についてのデモンストレーション。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス・制作開始		
2	制作		
3	制作		
4	額装についてデモンストレーション		
5	制作		
6	制作		
7	制作		
8	ミニ講評会（各自でディスカッション）		
9	制作		
10	制作		
11	パネル制作についてのデモンストレーション		
12	制作		
13	制作		
14	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。          1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展（神奈川県立近代美術館賞）。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ（大賞）他、（社）日本版画協会会員。版画学会会員。</p>			

## 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部（3年制）	2020年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	連作版画・インターンシップ	鈴木吐志哉、 東樋口徹、 中村真理、 山本剛史	5単位 195時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
各自の表現に適した版種を選択し、版材料の手配も含め、版画作品を2点制作することで技法の修得、将来の作家活動につながる個々の表現法・テーマを考えていきます。			
<b>【講義概要】</b>			
各自制作可能な大きさ、内容に挑戦してもらいます。2点制作。版サイズ450×300mm程度 就業体験（インターンシップ）をし、それをレポートにまとめて提出。（希望選択制）／就業につながる課題制			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス	36	作品制作
2	作品制作	37	作品制作
3	作品制作	38	作品制作
4	作品制作	39	制作指導
5	作品制作	40	作品制作
6	制作指導	41	作品制作
7	作品制作	42	作品制作
8	作品制作	43	制作指導
9	作品制作	44	作品制作
10	制作指導	45	作品制作
11	作品制作	46	作品制作
12	作品制作	47	中間講評
13	作品制作	48	作品制作
14	制作指導	49	作品制作
15	作品制作	50	制作指導
16	作品制作	51	作品制作
17	制作指導	52	作品制作
18	作品制作	53	作品制作
19	作品制作	54	作品制作
20	作品制作	55	制作指導
21	1点目講評	56	作品制作
22	作品制作	57	作品制作
23	作品制作	58	作品制作
24	作品制作	59	作品制作
25	制作指導	60	作品制作
26	作品制作	61	作品制作
27	作品制作	62	制作指導
28	作品制作	63	作品制作
29	制作指導	64	作品制作
30	作品制作	65	連作作品講評
31	作品制作		
32	作品制作		
33	制作指導		
34	作品制作		
35	作品制作		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>鈴木 吐志哉：1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展（神奈川県立近代美術館賞）。飛騨高山現木版画ビエンナーレ（大賞）他、（社）日本版画協会会員。版画学会会員。</p> <p>東樋口 徹：1975年奈良県生まれ。2006年東京藝術大学美術研究科修了。2005年第3回山本鼎版画大賞展準大賞、2007年Prints Tokyo 2007賞上賞（三極）、2009年The 2nd NBC MESHTC TOKYO INTERNATIONAL SCREEN PRINT BIENNIAL優秀賞。2015アワガミ国際ミニプリント展大賞。（社）日本版画協会会員。</p> <p>中村 真理：1988年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院版画コース修了。2013年日本版画協会第81回版画展山口源新入賞、第39回全国大学版画展収蔵賞、2015年武蔵野美術大学卒業・修了制作展優秀賞、第87回版画展準会員優秀賞（社）日本版画協会会員。</p> <p>山本 剛史：1967年静岡県生まれ。創形美術学校版画科卒業。主に「建築」「椅子」をモチーフにし、空間と「もの」のたがずむ相を切り取る作品を展開、近年では転写法を用いた平面作品や、平面にとどまらないオブジェ作品を制作、表現方法を広げている。東京、埼玉、神奈川、長野、名古屋、ドイツ、イギリス、上海などで個展発表。</p>			